

市町村名	与那国町						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	地域振興対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	総務財政課 交流推進班	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」及び「与那国島一周マラソン大会」に、これまでの入賞者やゲスト等を招くことにより既存の観光イベントへの参加促進を図る。また、夜間のイベントとして、島内では滅多に行われない花火の打ち上げ、他の体験型観光メニューへの参加者の招待などの企画も行い、既に定着しているイベントとの連携を図る。このような複合かつ多様な「イベント」の連携を図り、かつ、内容の「情報発信」を行うことで、観光客等の誘客と滞在時間の長期化を促進し、地域振興に結び付けるための支援を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,700	9,950	9,000	6,200	
		(b) 予算現額	4,640	6,581	6,200	11,780	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,060	▲ 3,369	▲ 2,800	5,580	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	4,640	6,581	6,200	11,780	
	B. 執行済額		4,640	6,581	6,200	8,100	
	うち交付金充当額		3,712	5,265	4,960	6,480	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	68.8%	
予算の状況の説明		・前回より計画していたカジキ釣り大会の打ち上げ花火を実施したため予算額が増額となった、しかし、その他の事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	カジキ釣り大会の支援（7月）	目 標	（ カジキ釣り大会の実施 ）	（ カジキ釣り大会の実施 ）	（ カジキ釣り大会の実施 ）	（ カジキ釣り大会の実施 ）	
		実 績	カジキ釣り大会の実施	カジキ釣り大会の実施	カジキ釣り大会の実施	カジキ釣り大会の実施	
	一周マラソン大会の支援（11月）	目 標	（ 一周マラソン大会の実施 ）	（ 一周マラソン大会の実施 ）	（ 一周マラソン大会の実施 ）	（ 一周マラソン大会の実施 ）	
		実 績	一周マラソン大会の実施	一周マラソン大会の実施	一周マラソン大会の実施	一周マラソン大会の実施	
達成状況説明	①「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」においては、台湾などからの新規の申込みがあり参加人数が増加したことにより、与那国町漁業協同組合では、漁業を営む漁師に対し、遊漁の資格取得を進め、遊漁資格を持つ漁業者が増加した。参加者及び住民並びに観光客（来島者）と一体となってイベントに参加されたことによって島のPRにつながった。また、カジキ釣り大会においては台風などの影響もあり申込数は去年よりも多かったもののキャンセルした参加者もいたため、当日の参加者数の目標には届かなかったが前大会より入域観光客数は増加した。 ②「日本最西端与那国島一周マラソン大会」においては参加者数の目標を大幅に越え初の700名を越した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	イベント開催月入域観光客数 カジキ釣り大会（7月）	目 標	（ ）	（ 2400人 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		（ 2774人 ）			
	イベント開催月入域観光客数 一周マラソン大会（11月）	目 標	（ ）	（ 3,000人 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		（ 3,683人 ）			
	【参考指標】 カジキ釣り大会参加者 一周マラソン大会参加者	目 標	（ ）	（ 110人 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		（ 113人 ）			
	進捗状況説明	「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」及び「与那国島一周マラソン大会」において、これまでに無かった各種イベント及びアトラクション等を実施したことにより、既存イベントの参加促進と、観光客等の誘致と滞在時間の長期化を促進することができた。成果目標としてあげていた入域観光客数がカジキ釣り大会の開催月である7月においては、目標2400人に対し実績2774人。マラソンの開催月である11月は目標3000人に対し実績3683人とどちらも大幅に目標数を越える結果となった。今後さらにイベントの充実化に取り組むことによって、PR等情報発信などを効果的に実施し、誘客促進につなげる。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・「日本最西端与那国島国際がじ釣り大会」において、スタートフィッシング後の主会場においてのサブイベント等が充実しておらず昼間の空き時間におけるイベント等の充実を図ることが必要である。 ・大会参加者のほとんどがリピーターとなっている。特に地元の遊漁船をチャーターしての参加に関してはリピーターの依頼がほとんどを占めており、新規の参加者を獲得できていない。 ・「与那国島一周マラソン大会」においては、県内参加者の割合が多く、県外へのマラソン大会のPR活動もより積極的に取組み大会参加者の増加の促進につなげる必要がある。また、今大会においては宿泊施設が足りず、宿泊所に関する問い合わせが相次いだ。	・参加者のみならず、一般観光客等へのニーズを十分に考慮した、多様なイベント等を検討し、体験できるイベント等の充実を図ることにより、与那国島のPR及び各大会への参加の促進、観光客等の増加につなげて行く。 ・島外、県外への大会PRをより積極的に行い、新規参加者の増加をはかり、より幅広く与那国島の魅力を島外に発信していく。 ・与那国島での大会参加者の宿泊先や受け入れ体制について、今大会においては公共施設を有料開放することで対応をした。参加者数を増やす事を目標としつつ、受け入れ体制を整えていく。
今後の取り組み方針		
・「日本最西端与那国島国際がじ釣り大会」においては、一般観光客等が与那国島の魅力を直に体験できるイベント等を実施し滞在時間の長期化を促進する。 ・参加者においては島外への大会の周知をより積極的におこない新規の参加者獲得をはかる。新規参加者の増加をはかることで、これまで以上に幅広く与那国島の魅力発信に繋げ地域振興に結び付ける。 ・「与那国島一周マラソン大会」においては、Webサイトや旅行会社等と連携した各種広報媒体等を活用したPR体制を構築し、より広い周知を行い大会参加者の促進につなげる。また、今後参加者の増加傾向に伴い、宿泊先や受け皿の体制なども合わせた形で大会を実施する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
与那国町 8,100千円 補助金 8,100千円 第26回日本最西端与那国島国際がじ釣り大会実行委員会補助金 6,100千円 第26回日本最西端与那国島一周マラソン大会実行委員会補助金 2,000千円 第26回日本最西端与那国島国際がじ釣り大会に係る補助金 需用費、役務費、備品購入費等 第23回日本最西端与那国島一周マラソン大会に係る補助金				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		8,100	8,100	6,480
				市町村負担金
				1,620
				交付対象外経費
				0
資金の流 れの 検 査 ・ 費 目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支出先の実行委員会は、補助金交付要綱の要件を満たしており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○カジ釣り大会及び一周マラソン大会実行委員会からの補助金交付申請により事業内容を確認の上で決定しており、妥当であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	与那国町						
平成27年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	与那国町特産品アピール力強化事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部課名	総務財政課 交流推進班	事業実施 (予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	離島地区であり、日頃より触れる機会の少ない与那国町の特産品の良さを知ってもらう為に、県内及び県外の物産展などの集客力を利用し出展を行い、特産品のPRを行って県内及び県外への販路開拓を図る。また、前年度に引き続き参加事業所には更なるレベルアップした店舗レイアウトや陳列方法、POPの作成方法などの専門家による事前講習を行い、より魅力を伝える事の出来る特産品のアピールを実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,500	4,500	4,500		
		(b) 予算現額	2,160	3,045	4,500		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,340	▲ 1,455	0		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	2,160	3,045	4,500		
	B. 執行済額		2,160	3,045	3,408		
	うち交付金充当額		1,728	2,436	2,726		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	75.7%		
予算の状況の説明		・不要額が1,092千円発生しているが、一部計画変更によるものであり、その他の計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	講習会の開催、特産品の県内及び県外の物産展への出展 講習会4回	目 標	(講習会開催 4回)	()	()	()	
		実 績	講習会開催 4回				
	講習会の開催、特産品の県内及び県外の物産展への出展 県内出展1回、県外出展1回	目 標	(県内出展1回 県外出展1回)	()	()	()	
		実 績	県内出展 1回 県外出展 未実施				
達成状況説明	・定員12事業者（1事業者2名）に対し10事業者の申し込みがあり、最終補助対象者は10事業者となった。実施された4回の講習会では、ブランディングに必要なマーケティング知識及びレイアウト技術について知識と技術を習得した。その成果を沖縄本島で行われる2015離島フェアで実践、与那国島の風景や動物をデザインに盛り込んだショッピングバックを作成するなどし、与那国自体のブランディングを行った。与那国ブランドに意識を向けた取り組みが行われ、技術・意識ともに向上が見られた。目標12事業者から10事業者になった理由としては、各事業者の都合等により参加が厳しい部分が見受けられた。活動目標の講習会は4回を実施し達成した。県外での出展1回を目標としていたが、県内の離島フェアでの出展1回のみとなり、達成には至らなかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	販売促進及びPRの向上、物産展出展による特産品販路拡大	目 標	()	(出店事業者数 12業者)	()	()	()
		実 績		出店事業者数 10業者			
	進捗状況説明	事業者の都合により当初計画の事業者数よりも2業者少なく、最終的には10業者になった。 与那国町では特産品を取り扱う事業者はいるものの、その特産品を实际販売するノウハウは乏しいのが現状である中で今回の事業を実施することによって販売へのスキルアップにつながり成果につながった。今後さらにレベルアップしながら講習を行い事業者に習得させ、さらなるスキルアップを図り、販路拡大及び地域活性化を目指す。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・継続して本事業に参加している業者に関しては、売り場のレイアウト技術においてかなりの向上が見られるが、ほとんどの事業者が県内での販売を主に行っており、県外での販売及び販路拡大への意欲等意識向上を図る。 ・多くの事業者の参加を推進するため、本事業の趣旨を理解してもらい、取り組んでいく必要がある。	・各事業者への物産展出展のみだけではなく、自発的且つ販売意識を向上を図る為に講習会等セミナーの参加を実施する。 ・県内物産展への出展のみならず、県外物産展への出展を目指し取り組む。 ・県外物産展への出展を行うことで、新たな課題の発見につなげる。 ・与那国町の商工観光を推進するためにも、全体的なスキルのアップによる相乗効果を図る必要がある。そのためには、未参加の事業者への事業参加を呼びかけるため、商工会を中心として啓蒙活動を強化していく。
今後の取り組み方針		
与那国町の各事業者のスキルアップを図る事によって販路拡大、販路開拓へとつなげる。また、そのことによって雇用促進など地域活性化にもつなげる為、県内物産展への出展のみならず、県外物産展への出展を目指し取り組む。新たな場所で出展をすることにより、新たな問題・課題を事業者が認識し販売意欲等意識向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
与那国町 3,408千円 補助金 3,408千円 与那国町商工会 3,408千円 町内事業者向け講習会の開催等に係る補助金				
総事業費		交付金 充当額	市町村 負担金	交付対 象外経 費
3,408		2,726	682	0
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支出先の実行委員会は、補助金交付要綱の要件を満たしており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○補助金申請及び実績報告により、補助金の決定を行っており妥当であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		与那国町						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名		2-① 与那国町農業用水対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-カ		
担当部課名		まちづくり課 地域整備土地改良班		事業実施（予定）年度 平成24～27年度		垂熱帯・島しょ性に適合した農水産業の基盤整備		
				沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(6)		
事業内容		安定した農業生産基盤を構築するため、農業用水を年間を通して確保するため、かんがい排水施設を整備し生産効率の向上を図るため近代生産施設の導入を実施する。						
実施方法		□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算の状況	(a) 当初予算額	20,000	40,000	22,030	10,000	
			(b) 予算現額	34,000	51,712	22,030	15,000	
			(c) 増減額 (b-a)	14,000	11,712	0	5,000	
			(d) 繰越額	—	—	—	—	
			A. 計 (b+d)	34,000	51,712	22,030	15,000	
		B. 執行済額		34,000	51,712	7,452	14,472	
		うち交付金充当額		27,200	41,370	5,961	11,577	
		次年度繰越額		0	0	0	0	
		執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	33.8%	96.5%	
予算の状況の説明		・当初計画ではさく井設備を事業計画していたが、農家の要望等も有り取水設備も含め実施した。						
活動目標（指標）及び達成状況		H27活動目標（指標）		達成状況				
				24年度	25年度	26年度	27年度	
		かんがい施設整備の実施 かんがい施設整備箇所数:1箇所	目 標	(4箇所)	(3箇所)	(4箇所)	(1箇所)	
			実 績	4箇所	3箇所	4箇所	1箇所	
		桃田原地区受益面積:34,499㎡	目 標	()	()	()	(34,499㎡)	
			実 績				34,499㎡	
		桃原地区受益面積:35,505㎡（H27未実施）	目 標	()	()	()	(35,505㎡)	
			実 績				0 ㎡	
		達成状況説明	農業用水さく井調査業務を実施し、かんがい排水が整備され、稲作に必要な不可欠な農業用水が確保され農家所得の向上が期待できる。数戸の水稻農家が廃業となる等の外部的要因により、一部目的が達成できない状況が発生した。					
		成果目標（指標）及び進捗状況		H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度
稲作における生産高の伸び率 前年度比5パーセント増 H26年度玄米生産高:57,904kg H27年度玄米生産目標:60,799kg	目 標			()	(60,799kg)	()	()	()
	実 績				44,437kg			
進捗状況説明	・農業用水かんがい施設整備を実施し、かんがい排水が整備されたが、今年度は過去にない大干ばつで稲作の生産額は低くなった。今後は稲作に必要な不可欠な農業用水が確保されたことで稲作の生産性向上及び農家負担の軽減・農家所得向上が図られる。平成27年産は生産目標の60,799kgに達しなかった原因として農家戸数の減が原因となった。（9農家→7農家）逆に反収は前年度比1.35％増となり生産額の増となった。							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・稲作の生産を行ううえで農業用水の確保が重要であるが、本町では、かんがい施設の整備が進んでいなく農業用水の確保が急務となっていた。当該事業において、整備に取り組んだことで、積極的な整備推進が図られた。しかしながら、面積が小規模な地区での用水対策は、未実施のため今後の課題である。また、一戸当りの作付け面積が大きいことから、廃業があったことは、目標達成に大きな影響を及ぼした。今後はソフト面からの農家支援も検討する必要がある。	・かんがい施設の整備を実施し年間を通じた農業用水の確保をされたことで、生産効率の向上及び農家の負担を軽減させることにより、本町の主要農産品である稲作の生産性向上及び農家所得の増加を目指していく。 ・昨年度と比較して反収の増は図られた。 ・面積が狭小は水田が集まる地域では、依然として農業用水確保の課題が残っていることから、今後は、費用対効果も含めたうえで、より効果的な対策を検討していく必要がある。
今後の取り組み方針		
かんがい施設の整備が実施されたことにより、農作物の生産性向上及び農家負担の軽減・農家所得の増加を図り、本町の農業振興と地域活性化へ繋げるとともに、通年を通して適切な維持管理を行っていく。近年は予想以上の干ばつ等があり作付け面積が激減している状況で、前年度までの面積が確保出切れれば目標額の60,799kgに達する事が出来る。そのためには、新規就農者の育成等を図るなど、水なし農業の脱却に努める。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14,472</td><td>14,472</td><td>11,577</td><td>2,895</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,472	14,472	11,577	2,895	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,472	14,472	11,577	2,895	0										
与那国町 14,472千円 委託料 14,472千円 株式会社 シルエンジニアリング 14,472千円 かんがい施設整備委託業務(桃田原地区地質調査等)に係る委託業務														
資金の 使途の 流れ 点検 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者及び工事請負業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益面積に対する、事業規模は設計上適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	与那国町さとうきびイネヨトウ防除事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部課名	産業振興課 農林水産班	事業実施(予定)年度	平成25～平成29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業者の担い手の育成・確保及び経営安定対策の強化 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	さとうきびの安定生産を図ることを目的に、夏植え60ha、春植え10ha、株出し20haを対象に農薬購入に対し支援を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,000	8,000	4,800		
		(b) 予算現額	3,723	4,726	4,800		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,277	▲ 3,274	0		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計 (b+d)	3,723	4,726	4,800		
	B. 執行済額		3,723	4,726	1,369		
	うち交付金充当額		2,978	3,025	1,095		
	次年度繰越額				0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	28.5%		
予算の状況の説明		・執行率が28.5%となったが、当初計画していた植え付け面積が自然災害(台風)の影響を受け減少したためであり、事業の目的としては適正であったと考えてる。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	農薬購入費の支援の実施	目 標	(農薬購入補助)	(農薬購入補助)	(農薬購入費支援)	()	
		実 績	農薬購入補助	農薬購入補助	農薬購入費支援		
達成状況説明	さとうきびの安定生産を図るため、植え付け時に必要な農薬購入費の補助を実施したことにより、生産性の向上に努めることが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	農薬購入費の支援の実施 補助農家数:98農家	目 標	()	(補助件数 90農家)	(補助件数 90農家)	(補助件数 98農家)	()
		実 績		補助件数 74農家	補助件数 54農家	補助件数 39農家	
	H27年度目標単収:6t 基準年(H24)平均単収:4t	目 標	()	()	(平均単収 5t)	(平均単収 6t)	()
		実 績			平均単収 3.5t	平均単収 4.8t	
	進捗状況説明	・夏植え時期の台風15・21号の襲来等により、当初予定していた植え付け面積が減少したことや農家への周知不足により、補助件数の成果目標を下回ることとなった。また、平均単収6トン成果目標にしていたが、干ばつや病害虫(イネヨトウ被害)の発生により27年度実績において平均単収4.8トンの実績となった。今後も継続的に植え付け時に必要な農薬購入費の補助を実施することにより、平成28年度収穫時の平均単収が向上する様に適正な肥培管理の徹底を及び農家への啓蒙活動を強化する。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(1)生産農家への事業説明の周知があまり図られていなかった。 (2)本事業の助成を受けた生産農家の単収の向上が見られた。 (3)目標単収の成果が上がらない要因としては、自然災害等や生産農家の適期の肥培管理の遅れ。 (4)生産農家より植え付け前に助成申請を早めに受け付ける。 (5)干ばつ発生前に散水作業を実施することにより、干ばつ被害を最小限に抑える。	(1)生産組合総会時に本事業の説明を実施する。また、生産農家へパンフレットを配布することにより普及啓発を図る。 (2)生産農家への適期肥培管理の指導を関係機関で強化する。
今後の取り組み方針		
今後、ペイト剤の購入助成を実施することにより、イネヨトウの発生を抑え、生産農家の所得の向上及びさとうきび増産に向けて関係機関の連携強化を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,711</td><td>1,369</td><td>1,095</td><td>274</td><td>342</td></tr> </table> 与那国町 1,369千円 補助金 1,369千円 沖縄県農業協同組合与那国支店 1,369千円 さとうきびイネヨトウ防除にかかる補助金 受益者負担分 (交付対象外経費) 342千円(39農家)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,711	1,369	1,095	274	342
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,711	1,369	1,095	274	342										
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○与那国町さとうきび生産組合の事務局があり、かつ公的機関であるため妥当である。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○さとうきびイネヨトウ防除事業補助金申請により、対象面積及び防除実績を確認の上で決定しており、妥当であったと考えている。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○受益者負担については防除対象実績に応じ負担額を決定しており、妥当であったと考えている。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。										

市町村名		与那国町							
平成２７年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		2－③		優良牛繁殖雌牛導入事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(7)－エ	
担当部課名		産業振興課 農林水産班		事業実施 (予定)年度		平成25～33年度		農林漁業者の担い手の育成・確保及び経営安定対策の強化	
						沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ－1－(6)	
事業内容		与那国町の和牛生産を推進すると共に、繁殖雌牛の生産基盤の拡充・強化を図り、改良を促進し、肉用牛の資質向上を図るために、与那国町の農業従事者団体に対して、優良繁殖雌牛購入費用の一部を支援し、購入費用の1／2以内、1頭当たり300千円を上限として助成するものとする。与那国町の繁殖雌牛頭数 800頭の約10%で見込んだ80頭（年間20頭）を目標に4年計画で導入する。							
実施方法		□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,200	3,200	9,000			
			(b) 予算現額	3,449	6,222	7,500			
			(c) 増減額 (b-a)	249	3,022	▲ 1,500			
			(d) 繰越額	－	－	－			
			A. 計 (b+d)	3,449	6,222	7,500			
		B. 執行済額		3,449	6,222	4,800			
		うち交付金充当額		2,759	4,977	3,840			
		次年度繰越額		0	0	0			
		執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	64.0%			
予算の状況の説明		・減額、4,200千円発生しているが、当初計画していた導入頭数(30頭→16頭)が減少したための減額であり、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。							
活動目標 (指標) 及び達成状況		H27活動目標(指標)		達成状況					
				25年度	26年度	27年度	28年度		
		優良牛繁殖雌牛導入の実施	目 標	(繁殖雌牛導入実施)	(繁殖雌牛導入実施)	(優良牛繁殖雌牛導入の実施)	()		
			実 績	繁殖雌牛導入実施	繁殖雌牛導入実施	優良牛繁殖雌牛導入の実施			
達成状況説明		本町の和牛生産の安定を図るため、優良繁殖雌牛の導入にかかる費用の一部を助成したことにより、本町の畜産業の振興及びのブランド力の向上を図った。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)	
		優良牛繁殖雌牛を、20頭以上導入	目 標	()	(年間16頭)	(年間20頭)	(年間20頭以上)	(子牛平均価格 H27年度： 350,000円)	
			実 績		年間20頭	年間21頭	年間16頭	子牛平均価格 H27年度実績 559,190円	
		進捗状況説明		・当初20頭導入の予定で事業を進めたが、事業執行時において導入希望者が当初予定者より下回ったことにより導入数が減少した。 ・和牛生産の安定を図るため、優良繁殖雌牛の更新を計画的に進めることで、本町の畜産牛のブランド力を高め畜産農家の所得向上及経営安定に繋げていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本町の母牛頭数の著しい減少が生じている現状であり、優良繁殖雌牛の導入費用の一部支援を行うことで、畜産農家の所得向上及び経営安定が図られ、畜産農家の減少及び担い手の育成に繋がっていることから、優良繁殖牛の導入に係る助成を図る必要がある。 ・また、ここ数年間子牛のセリ価格が高騰しているため、購入費がかなり高額となっており補助額の増額について検討する必要がある。	・本事業において優良繁殖雌牛の導入費用の一部支援を行うことで子牛価格の増加を図り、本町の農業振興を図るとともに担い手の育成へ繋げていく。 - 今後の課題として、現行の補助(1/2以内、上限300千円)の見直について畜産農家より強く求められており、補助額の増額の検討が必要がある。 ・本事業の実績として、平成27年8月から平成28年3月セリへ9頭の出荷があり、高値での取引価格の結果が生まれおり、畜産農家の所得向上及び経営安定図られている。
今後の取り組み方針		
優良繁殖雌牛導入を継続して実施し、畜産農家のニーズにあった増頭を計画的に推進し、畜産農家の減少に歯止めをかけ安定的な子牛生産を目指すとともに所得向上及び経営安定を確保し、本町の畜産振興、担い手の育成へ繋げていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>10,512</td><td>4,800</td><td>3,840</td><td>960</td><td>5,712</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,512	4,800	3,840	960	5,712
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,512	4,800	3,840	960	5,712										
与那国町 4,800千円 補助金 4,800千円 沖縄県農業協同組合与那国支店 4,800千円 (和牛生産を推進するため繁殖雌牛の導入にかかる補助金) (受益者負担分 (交付対象外経費) 5,712千円(1頭当り1/2補)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先については、当事業内容により精通していることから妥当であると考ええる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○優良遺伝繁殖雌牛促進事業補助金申請により、導入牛の個体識別及び対象牛実績を確認の上で決定しており、妥当であったと考えている。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については導入牛価格の1/2を負担額として決定しており、妥当であったと考えている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名		与那国町							
平成27年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		2-④		水産物輸送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ		
担当部課名		産業振興課 農林水産班		事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業者の担い手の育成・確保及び経営安定対策の強化 Ⅲ-1-(6)		
事業内容		与那国町は、離島のさらに離島であるが為、地理的不利性を解消し、水産業の活性化を図るため、与那国町漁業協同組合が沖縄本島へ出荷する生鮮水産物の空路輸送料に対し支援を行う。							
実施方法		☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		予算の状況		(a)当初予算額	3,528	5,000	2,128		
				(b)予算現額	2,374	2,355	2,128		
				(c)増減額(b-a)	▲ 1,154	▲ 2,645	0		
				(d)繰越額	—	—	—		
				A. 計(b+d)	2,374	2,355	2,128		
		B. 執行済額		2,374	2,355	2,128			
		うち交付金充当額		1,899	1,884	1,702			
		次年度繰越額		0	0	0			
		執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・当初計画していた活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。							
活動目標（指標）及び達成状況		H27活動目標（指標）		達成状況					
				25年度	26年度	27年度	28年度		
		目標	（空路輸送費補助）	（空路輸送費補助）	（空路輸送費補助）	（ ）			
		実績	空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助				
達成状況説明		生鮮水産物の沖縄本島まで空路輸送費補助を実施し、これまで輸送費が負担となり出荷されなかった生鮮水産物の出荷が増加し、漁業者の負担軽減及び経営安定が図られた。							
成果目標（指標）及び進捗状況		H27成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）	
				目標	（ ）	（前年度比5%増）	（前年度比5%増）	（27年度2.6トン）	（ ）
		生鮮水産物の出荷量 27年度2.6トン(25年度2.4トン)		実績		前年度比130%増	前年度比2%減	27年度6.1トン	
		進捗状況説明		平成27年度の生鮮水産物の出荷量目標の2.6トンに対し6.1トンと増加した要因としては、県内消費の需要が増加したためその実績となった。また、生鮮水産物の空路輸送費補助(沖縄本島)を実施したことにより、これまで航空輸送費が負担となり出荷されなかった生鮮水産物の出荷が図られた。このことから今後も空路輸送費補助を行うことで、漁獲高増及び所得向上が見込まれ漁業振興に繋がる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本町は、県内の離島に比べ距離が長く沖縄本島～与那国間:509kmとなっており航路・航空路の運賃が高額で経済的不利性をもたらしている。そのことから生鮮鮮魚の出荷に係る割高な航空路の運賃を軽減を図ってきたが、航空機材が小さいため(与那国～石垣間、与那国～那覇間)生鮮鮮魚の積み残しが生じており、輸送体系の改善が必要となっている。	・本事業で空路輸送費に対して補助を実施することにより、生鮮水産物の出荷量の拡大及び価格競争力の向上を図り、漁業者の所得向上及び経営安定を確保し、本町の水産業振興を図り担い手の育成へ繋がっている。 ・出荷量については、これまでカジキを中心に県内出荷を行ってきたが、本事業の実施により「マグロ類、マチ類」の出荷量が増加し漁業者の所得向上及び経営安定へ繋がっている。 ・今後の課題として、現行の補助(キロ当たりの陸路輸送費と航空輸送費の差額)の見直しについて漁業者より強く求められており、実費による補助が出来ないかどうか検討していく必要がある。
今後の取り組み方針		
平成28年4月より航空機材の更新に伴い、これまで輸送体系の改善が見込まれることから引き続き空路輸送費の補助を実施していくことにより、これまで行われなかった新しい漁業への展開及び漁業者の所得増加及び経営安定の向上を図り、水産業の活性化と島の活力を維持・推進すると共に、新規就業者及び担い手の育成へ繋げていく。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
与那国町 2,128千円 補助金 2,128千円 与那国町漁業協同組合 2,128千円 総事業費 2,128 交付対象事業費 2,128 交付金充当額 1,702 市町村負担金 426 交付対象外経費 0 生鮮魚の沖縄本島へ航空路輸送費にかかる補助金				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先については、当事業内容により精通していることから妥当であると考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○与那国町生鮮水産物流通条件不利性解消事業交付金申請により、対象輸送量及び輸送実績を確認の上で決定しており、妥当であったと考えている。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については輸送実績を持って決定しており、妥当であったと考えている。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	

市町村名	与那国町						
平成27年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	家庭学習支援モデル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上		
事業内容	本事業では、小中学生を対象とする家庭学習支援のため、既存の複合型公共施設に設置されているWeb会議システムを用いたオンライン双方向授業を行う「町営学習塾」を開設する。授業は現役東大生を講師とし、日本最高峰の学びを与那国の子供たちへ提供することにより、単に知識のみでなく、勉強の方法や学ぶ姿勢を身につける場を提供し、教育環境格差の大きい離島の地において、中央と同じ授業を受けることが可能な環境を整備する。これにより、U・Iターンを阻害する要因である中央との教育環境の格差を解消し、人口の増加と地域の活性化を担う人材の育成を図る。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,508	16,300	16,629	18,249	
		(b) 予算現額	11,508	15,239	16,229	18,249	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,061	▲ 400	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	11,508	15,239	16,229	18,249	
	B. 執行済額		8,090	15,239	16,229	16,604	
	うち交付金充当額		6,472	12,191	12,983	13,283	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		70.3%	100.0%	100.0%	91.0%	
予算の状況の説明		・事業執行率が91.0%となったが、委託費の入札残額によりものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習塾受講率（中学生）H27年度：60%（21名）全生徒35名 ＊基準年（H23）：40%	目標	（町営学習塾の実施）	（塾受講率中学生46%）	（受講率中学生50%受）	（受講率中学生60%）	
		実績	町営学習塾の実施	塾受講率中学生50%	塾受講率中学生45%	塾受講率中学生36%	
	学習塾受講率（小学生）H27年度：60%（23名）全児童39名 ＊基準年（H23）：0%	目標	（塾受講率小学生41%）	（講率小学生45%）	（受講率小学生60%）		
		実績		塾受講率小学生44%	塾受講率小学生47%	塾受講率小学生20%	
達成状況説明	1 平成27年度目標の受講率が下回っている。理由は平成26年度から全児童生徒数の減少傾向が続いていたが、平成28年度より島外から自衛隊家族の転入等の児童生徒数の若干名増加により、今後は受講率目標に近づいていくことが考えられる。 2 平成27年度全国学力・学習状況調査正答率の小6年で、国語A70.0%、国語B71.9%、算数A81.7%、算数B49.2%。中3年の国語A80.7%、国語B70.7%、数学A74.5%、数学B47.9%の正答率が全国平均正答率を超える結果となった事は入塾している小6年、中3年生徒の成果といえる。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	27年度
	・各種学力テスト等において全国平均値の達成を目指す ・平成26年度小学校全国学力学習状況調査結果（国語A：町63.6 全国72.9 算数A：町71.0 全国78.1）	目標	（ ）	学習塾受講率（中学生）60%（小学生）51%	学習塾受講率（中学生）46%（小学生）41%	学習塾受講率（中学生）50%（小学生）45%	学力テスト全国平均値の達成：小学国語A、算数A
		実績		学習塾受講率（中学生）60%（小学生）51%	学習塾受講率（中学生）50%（小学生）44%	学習塾受講率（中学生）45%（小学生）47%	学力テスト平均値比較（小国A町78.0% 全国70.0% 算数A町81.7% 全国75.2）
	・各種学力テスト等において全国平均値の達成を目指す ・平成26年度中学校全国学力学習状況調査結果（国語A：町81.7 全国79.4 数学A：町65.0 全国67.4）	目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	学力テスト全国平均値の達成：中学国語A、数学A
		実績					学力テスト平均値比較（中国A町80.7% 全国75.8% 数学A町74.5% 全国64.4%）
	進捗状況説明	与那国町家庭学習支援モデル事業の実施により、学校以外で学びの場が少ない本町の児童生徒が学習塾を受講し、勉強の方法や学ぶ姿勢を身につけ、確かな学力の向上に繋がっている。また、全国的な学力テスト等において全国平均に達している教科も多いことから十分な効果が得られている。離島へき地の学習環境・教育環境の充実に繋がっている。 今後の取り組みとして、より効果を上げるために、個別指導の充実を図るための機能を強化、対象学年を広げる、夏休みを利用した夏期講習の充実を図っていく必要があると考える。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成27年度は全体として児童生徒が授業によく参加できていた。特に、小6年、中3年生は、一年間まじめに授業に取組み全国学力・学習状況調査で全国平均を上回った結果であった。受講率においては小学校20%、中学校36%である。また、受講生に対するアンケートによると中学生はおおむね良好であるが小学生より授業内容に対する要望があった。	(1)通信機器について 島内ネット環境がADSL回線のため、受講時間に公共工事業者の回線が混雑し、受講時のTVの映像や音声 が乱れが生じた。後半から外付け音声装置を追加し音声のみの受講もあり、次年度以降からの光回線等の抜本的な見直しが必要。 (2)小、中学生 児童生徒の学力間が二極化し、下層児童生徒への学力に合わせた対応と指導方法、及び講師・町の情報共有を図り問題点の解決に対処する。 (3)その他 受講率が低い地域は児童生徒の通学の問題が要因と考えられる。しかしながら当町においては路線バス等の整備が不十分のため保護者に対する要請及び既存の車両等による運行・輸送計画の見直しを行う。
今後の取り組み方針		
1 受講時間に公共工事業者の回線が混雑し、受講時のTVの映像や音声 が乱れが生じている課題に対し、平成28年度10月から自治体予算で光ケーブル回線の取付けが完了予定になっている。島内の回線環境が整える準備が進んでいることで、町営塾専用の回線も広くなり映像や音声の課題も解決できる見通しである。 2「国境」の「孤島」である与那国島において、子ども達の学力向上は、地域社会が望む永遠のテーマであり、安心して住み続けるために必要な学習環境・教育環境の機会を提供する。さらに、町の将来を担うべき地の才能を埋もれさせないためにも人材を育成し、将来の人口の増加と地域の活性化を図るため、本事業を継続的に続けて行く。 3 更なる生徒個人のレベルUPを図るため、個別指導の機能を強化、対象学年の拡大、夏期講習の充実に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		16,604	16,604	0
		交付金充当額	市町村負担金	
		13,283	3,321	
与那国町 16,604千円 委託料 12,901千円 株式会社 フィオレ・コネクション東大NETアカデミー 12,901千円 〔与那国町家庭学習支援モデル事業にかかる委託業務〕 賃金 2,060千円 学習補助員(4人) 2,060千円 〔与那国町家庭学習支援モデル事業にかかる学習補助員賃金〕 会場使用料 1,272千円 与那国町観光協会(指定管理者) 1,272千円 〔与那国町家庭学習支援モデル事業にかかる会場使用料〕 事務費 371千円 〔需用費、役務費、備品購入費〕				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業者は企業組織、実績、知識等を勘案した上、指名競争入札により選定している。また、学習支援員の賃金については、与那国町賃金職員雇用管理規程に基づき確認の上で支出しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○執行額に減額があったもののほぼ適正規模だと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	与那国町						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	教育諸活動助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	与那国町教育委員会 総務課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本事業は、町内の児童生徒の各種大会派遣費（航空運賃等）を助成することにより、与那国に住む子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮する機会を提供する。この住民負担の軽減により、貴重な経験を得ることができる機会をより多く提供し、本町の未来を拓く子供たちの能力向上を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(a) 当初予算額	6,000	12,946	8,000		
		(b) 予算現額	5,297	9,278	10,101		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 703	▲ 3,668	2,101		
		(d) 繰越額	—	—	—		
	A. 計 (b+d)	5,297	9,278	10,101			
	B. 執行済額	5,297	9,278	9,586			
	うち交付金充当額	4,237	7,422	7,668			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率（％）(B/A)	100.0%	100.0%	94.9%			
予算の状況の説明	・執行残515千円発生しているが、当初計画していた一部大会等に派遣できなかったため減額であり、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	各種大会児童・生徒派遣費助成実施 小学校150人 ※基準年（H25） 小学校116人	目 標	（ 300人 ）	（ 365人 ）	（ 小学校150名 ）	（ ）	
		実 績	290人	379人	215		
	各種大会児童・生徒派遣費助成実施 中学校180人 ※基準年（H25） 中学校174人	目 標	（ ）	（ ）	（ 中学校180名 ）	（ ）	
		実 績			199		
達成状況説明	町内5校の児童生徒を各種大会へ派遣するため、渡航費等の費用の助成を実施した。また、与那国に住む子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮する機会を提供した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値 （23年度）	24年度・25年度	26年度	27年度	目標値 （28年度）
	各種大会児童・生徒派遣費助成実施 ・小学校150人（延べ数）	目 標	（ 400人 ）	（350人・300人）	（ 365人 ）	（ 小学校150名 ）	（ 延べ派遣人数 2,000人 ）
		実 績		376人・290人	379人	215	
	各種大会児童・生徒派遣費助成実施 ・中学校180人（延べ数）	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ 中学校180名 ）	（ ）
		実 績				199	
	進捗状況説明	・各種大会への派遣に係る渡航費助成の実施により、H27年度414人の児童生徒が貴重な経験を得ることができる機会をより多く提供し、本町の未来を拓く子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・過年度同様、本事業の推進により、与那国に住む子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮する機会をより多く提供し、本町の未来を担う児童・生徒の教育環境充実と、保護者負担の更なる軽減の助成策が必要である。	・町内各校の規模にも起因していると思われるが、各種大会派費の助成実績にバラツキが見られるので、学校現場と情報を共有し参加大会の掘り起こしを図る。
今後の取り組み方針		
児童生徒の各種大会派遣費(航空運賃・宿泊費)の助成を維持することにより、教育諸活動の経済的負担軽減を図ると共に、島嶼地区が抱える児童生徒に対する適切な教育支援を継続的にしていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,586</td><td>9,586</td><td>7,668</td><td>1,918</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 与那国町 9,586千円 補助金 9,586千円 町内小中学校(5校)各種大会等派遣助成金 9,586千円 各種大会等派遣費にかかる助成金(各種大会派遣旅費)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,586	9,586	7,668	1,918	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,586	9,586	7,668	1,918	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○児童生徒派遣費等補助金交付要綱により、派遣大会及び派遣対象児童生徒を確認の上で決定しており、支出先の選定方法は妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模も上記同様要項に基づき決定、交付しており適正であった。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町						
平成27年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	地域国際交流事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-オ	
担当部課名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流と貢献による離島の新たな振興 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本事業では、本町の姉妹都市である台湾・花蓮市への小学生のホームステイを行い、島の次世代を担う少年少女に異文化交流と体験学習を深めることにより、国際的な広い視野と高い語学力を持つ人材を育成を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況	(a) 当初予算額	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(b) 予算現額	2,980	2,269	3,172	3,432	
		(c) 増減額 (b-a)	2,909	3,132	2,638	3,230	
		(d) 繰越額	▲ 71	863	▲ 534	▲ 202	
		A. 計 (b+d)	—	—	—	—	
	B. 執行済額		2,909	3,132	2,638	3,230	
		うち交付金充当額	2,909	3,132	2,638	3,230	
		次年度繰越額	2,327	2,505	2,111	2,583	
	執行率（％）(B/A)		0	0	0	0	
	予算の状況の説明	・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標（指標） 及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・台湾「花蓮市」へホームステイ児童13人を派遣	目 標	(15人)	(15人)	(10人)	(13人)	
		実 績	15人	16人	11人	14人	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	本町の姉妹都市である台湾・花蓮市への小学6年生を対象としたホームステイを実施した。また、島の次世代を担う子供たちに異文化交流と体験学習を深めることにより、国際的な広い視野を高めることが出来た。さらに、異国での集団宿泊学習を通して、好ましい人間関係を深める能力態度を育むことができた。 報告会として、各学校でプレゼンテーションによる全体会を持ち、キャリア教育の一環として、将来の夢や希望を培う機会設け、さらに、個人学習として新聞づくり等を行い国際理解教育の「異文化理解」「自国文化の理解」や生きる力に必要な「表現力」を身につけることができた。 今後、さらなる活動として小中学校や地域を巻き込んだ報告会、活動を実施する計画である。						
成果目標（指標） 及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	27年度
	派遣後、アンケートによる意識調査。（小6年生14名）	目 標	()	()	()	()	アンケート調査
		実 績					未実施
	学力向上推進実践報告会：ホームステイ報告	目 標	()	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)
		実 績		1回	1回	1回	1回
	異文化に対する理解力、適応力、外国人とのコミュニケーション能力を備えた人材の育成	目 標	()	()	()	(1回)	(実施)
		実 績				体験文・国際理解新聞発行	実施
	進捗状況説明	・花蓮県の小学校との子ども同士の直接的な交流を通して、国際理解教育の「平和」「人権」「異文化理解」「自国文化理解」「表現力」の指導の視点の推進を図ることができた。 ・当初計画時において10人生徒を予定していたが、14人となった事により増となった。 ・当該事業への意識調査のためのアンケートを実施予定であったが、ホームステイ等の事前準備作業に時間を要したため、実施前の意識調査をする適時性を逃してしまい、実施出来なかった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・推進上の問題として、事前学習の不足である。小学生の段階で、海外で学習させる機会を得たが、十分に台湾や花蓮縣等について学習して交流事業に臨んだと言い難い。語学は勿論のこと、現地の文化について学習が深まれば、異文化理解も深まったことが予想される。 ・ホームステイで得られる異文化交流の深化を図るため、ホームステイで派遣される青少年自らが伝える「地域が持つ伝統文化や芸能」の充実が必要である。 ・事前準備において事務が複雑になりアンケート調査が実施出来なかったことは、単なる人的な問題である事から早急な対策を図る必要がある。	・改善策として、町内三小学校6年で対象の宿泊学習を計画し、台湾の歴史・文化、自然について学習を深め、本町との歴史・文化、自然についての比較で異文化理解を深める機会を得させたい。 ・ホストファミリー側の満足度を高める工夫についても考慮し、本町の青少年がホームステイで得られる経験をより良くする工夫が必要である。 ・事務的に問題で事業に支障が出ないよう、十分な事務体制を再構築する必要がある。
今後の取り組み方針		
・小学校時代に異文化に触れ、母国語以外の言語でコミュニケーションを交わす等の経験する意義は大きく、子供によっては、台湾社会の異文化に触れ、今後の進路選択にも大きく影響されるものと思われることから、この貴重な体験を今後も子どもたちに与えるため引き続き事業を推進していく。 ・ホームステイを終了した小学生を対象に、ホームステイ前後で生じた自らの変化などについて話し合う機会を設け、次年度以降のホームステイの内容や事前の活動に反映し、より効果的な内容とする取り組みを推進する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
与那国町 3,230千円 委託料 3,230千円 株式会社 中央ツーリスト 3,230千円 総事業費 交付対象 事業費 交付金 充当額 市町村 負担金 交付対象 外経費 3,230 3,230 2,583 647 0				
与那国町 3,230千円 委託料 3,230千円 株式会社 中央ツーリスト 3,230千円 平成27年度台湾花蓮県小学校 等交流事業にかかる委託業務				
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は随意契約方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行額に減額があったもののほぼ適正規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		与那国町							
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		3-④ 与那国町ジュニア海外語学研修派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(12)-オ		
担当部課名		与那国町教育委員会 教育課		事業実施（予定）年度	平成25～33年度		交流と貢献による離島の新たな振興		
					沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(1)		
事業内容		本事業は、町内の中学生を対象として、ジュニア期の早い時期に欧米への語学研修（短期ホームステイ）の支援を行う。ジュニア期の語学研修は、海外での生活体験を通して外国語への学習意欲を喚起する。また、国際交流を通して地域文化を見つめ直す機会を提供することになり、豊かな国際感覚を身につけた人材の育成、及び町の将来を担う人材の育成を図る。							
実施方法		☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		予算の状況	(a) 当初予算額	1,794	2,676	3,116			
			(b) 予算現額	2,327	3,042	2,868			
			(c) 増減額 (b-a)	533	366	▲ 248			
			(d) 繰越額	—	—	—			
			A. 計 (b+d)	2,327	3,042	2,868			
		B. 執行済額		2,327	3,042	2,867			
		うち交付金充当額		1,862	2,433	2,293			
		次年度繰越額		0	0	0			
		執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・減額が248千円発生しているが、委託費の入札残額によりものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。							
活動目標（指標）及び達成状況		H27活動目標（指標）		達成状況					
				25年度	26年度	27年度	28年度		
		海外語学研修派遣生徒数：4人（アメリカ）		目 標	（ 派遣事業の実施 ）	（ 派遣事業の実施 ）	（ 派遣事業の実施 ）	（ ）	
				実 績	派遣事業の実施	派遣事業の実施	派遣事業の実施		
達成状況説明		国際交流の一環として取り組み、与那国町の子ども達が外国を身近に感じ取り、視点を郷土に置きながら与那国町の国際化が拡充する好機となった。また、子ども達に海外での生活体験を通して外国語学習への意欲喚起と豊かな国際感覚を身につけさせることができた。							
成果目標（指標）及び進捗状況		H27成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）	
		・派遣後、アンケートによる意識調査。進路先調査の実施（中学生4名派遣）		目 標	（ ）	（ アメリカ 2人 イギリス 2人 ）	（ アメリカ 2人 イギリス 2人 ）	（ アメリカ 2人 イギリス 2人 ）	（ ）
				実 績		アメリカ 6人	アメリカ 4人	アメリカ 4人	
		・異文化に対する理解力、適応力、外国人とのコミュニケーション能力を備えた人材の育成		目 標	（ ）	（ ）	（アメリカ 4人）	（人材の育成）	（ ）
				実 績			感想文・英検3級取得（2人/4）	人材育成実施 英検3級取得（3人/4）	
		進捗状況説明		・当初目標がイギリス2人派遣予定であったが、治安維持のためにアメリカ国への派遣に絞り海外語学派遣事業を実施した。さらに、国際的な視野を持って活躍する人材育成を目指すため、アメリカへの語学派遣を行い、与那国町の発展のためにグローバルな人材育成を図ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・ホームステイ事前研修会で「ホームステイの心構え」「相互理解」「公共道徳性マナー」を学んでいるが、現地での体験学習に活かしきれていない状況である。派遣生徒としての自覚を持たせる必要がある。 ・異文化や外国人とのコミュニケーションに関心の高い生徒を育成し、英語学習に意欲的に取り組んでいく必要がある。	・本事業の趣旨を、応募する生徒への周知を徹底し、選考試験等で応募者の自覚を確認する選考試験等の工夫を図る。 ・中学生を中心として国際交流や語学教育の充実を図ることを目的として国際交流を実施してき、今後、地域における国際交流活動を考え、地域の住民と様々な形で交流を深める国際交流を行い、地域へ積極的に発信する活動を計画する必要がある。また派遣対象者に対する進路先調査等により本事業の効率の検証を行う。
今後の取り組み方針		
・中学校時期に異文化に触れ、母国語以外の言語でコミュニケーションを交わす等の経験する意義は大きく、子供によっては、米国の異文化に触れ、今後の進路選択にも大きく影響されるものと思われる。この貴重な体験を今後も子どもたちに与えるため引き続き事業を推進していく。 ・ホームステイを終了した中学2年生以上を対象に、ホームステイ前後で生じた自らの変化などについて話し合う機会を設け、次年度以降のホームステイの内容や事前の活動に反映し、より効果的な内容とする取り組みを推進する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,867</td><td>2,867</td><td>2,293</td><td>574</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,867	2,867	2,293	574	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,867	2,867	2,293	574	0										
<pre> graph LR A[与那国町 2,867千円] --> B[委託料 2,867千円] B --> C[株式会社 南日本カルチャーセンター 2,867千円] C --- D["町内中学生海外語学研修派遣 にかかる委託業務"] </pre>														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は随意契約方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。(専門的教育分野を服務事業であり業務委託においては、本業務に精通している業者を選定した。海外への生徒派遣業務という特殊事情のため、派遣生徒の安全面を最大限に考慮することを第一に、業務内容を十分把握している等の理由により例年業務委託を契約を交わしている) ○執行額に増額があったもののほぼ適正規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	与那国方言保存継承支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア	
担当部課名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施 (予定)年度	H25～H29	沖縄振興基本方針 該当箇所	伝統文化と保全・継承及び新たな文化の創造		
事業内容	本事業は、2009年UNESCOに消滅危機言語として登録された与那国語の記録保存と伝承、再活性化を目的とし、主として辞書作成を行う。並行して、保存継承のための企画を展開して衰退しつつある言語の使用を推奨する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,310	2,310	6,766		
		(b) 予算現額	1,219	6,000	5,115		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,091	3,690	▲ 1,651		
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	1,219	6,000	5,115		
	B. 執行済額		1,219	6,000	3,933		
	うち交付金充当額		975	4,800	3,146		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	76.9%		
予算の状況の説明		減額1,651千円は、開催を見送ったスンカニ大会実行委員会の補助金及び賃金職員が雇用できなかったためである。その他の事業については当初予定していたものをすべて実施、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	方言辞典作成に向けた資料の収集、保存、記録活動。	目 標	(講演会の実施)	(講演会の実施)	(専門家の雇用)	()	
		実 績	講演会の実施	講演会の実施	専門家の雇用		
	方言イベント2回	目 標	()	()	(方言イベント2回)	()	
		実 績			(方言イベント1回)		
	講座(講演会)6回	目 標	()	()	(講座6回)	()	
		実 績			(講座2回)		
	わらべ唄CD作成	目 標	()	()	(わらべ唄CD作成)	()	
		実 績			わらべ唄CD作成	()	
達成状況説明	H27年度は当初計画通り、言語学の専門家を嘱託員として雇用し、方言辞典作成に向けた基礎資料収集、記録、保存の促進を図ることができた。講座は一般町民向けに琉球大学の狩俣繁久教授を招聘し「島の方言辞典の作り方」を2回実施した。講座開催目標は6回であったが、本講座の終了後、方言に強い関心を持つ者が、嘱託員の実地指導を受け、辞書作成技術、知識を学んだ。そのうち1名はH28年以降、臨時職員として本事業に関わることとなった。講座開催は本事業の緊急性・継続性という観点から、成果があった。イベントは誰でも気軽に楽しめることが趣旨であり、よく知られた詩「雨二モ負ケズ」を活用した方言による朗読会を開催した。目標達成には、話者の協力及び企画力が不足しており、他市町村での取り組み等を研究し、H28年度以降、改善を図る。わらべ唄CDはH26年度に作成した与那国わらべ唄工四に対応しており、方言保存継承のツールとしてより活用しやすくなった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)
	・方言資料の集約	目 標	()	()		1000語	()
		実 績				1000語	
	方言イベント 200人(100人×2回) 基準年度:H26年度40人(方言カルタ大会)	目 標	()	方言大会20名 スンカニ大会25人	方言大会20名 スンカニ大会25人	スンカニ大会200人 方言発表会200人	()
		実 績		方言大会未実施 スンカニ大会未実施	方言大会未実施 スンカニ大会未実施	スンカニ大会未実施 方言発表会未実施	
	講座(講演会)180人(30×6回) 基準年度:H26年度 120人(講演会、ワークショップ)	目 標	()		講演会300名	講演会160名	()
		実 績			講演会120名	講演会65名	
進捗状況説明	辞書資料の集約について、専門家を嘱託員として雇用したことで効率化が図られた。また、嘱託員の実地指導を通して、島内辞書作成人材を育成することができたため、H28年以降、より事業の促進が見込まれる。辞書本体の進捗としては、計画通り1000語程度の収集と録音が完了した。方言に関する講演会等については、3回開催し、1回の参加者は20～25人に留まったが、より関心の高い町民が集まる傾向がみられるようになった。スンカニ大会については、H28年度開館の与那国歴史文化交流館に実行委員会事務局を置いてする要望が強くあり、開催を見送った。しかしながら出場者不足は深刻であり、開催形式の検討、早めの準備が必要である。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	与那国島では人口の流入を現在経験しているが、新しい島民が増えるからこそ、方言の記録や、方言の継承の重要性は増す。まず、人口増加による圧力によって、方言の継承が危ぶまれる、ということが考えられる。そのため、方言辞書の作成などを通して、できるかぎり早急に方言の記録を作成しておくことが、今まで以上に重要になっている。また、一方で、新しい島民に対しては伝統的方言との接触が望まれる。これは実際のコミュニケーション上の問題を解決するため、という側面よりも、むしろ多文化教育の側面が強い。生まれは島ではなくとも、暮らすことになった島のことを知り、理解することは当然重要である。このための1つの事例として、方言が挙げられる。実際、すでに島に暮らす島外出身者から、方言を知りたい、という声を聞くことは少なくない。	現在作成中の辞書は、できるかぎり使いやすいものを、という方針であり、例文を付すなどしている。しかし、実際の場面に即した会話例文集などを求める声が、島外出身者からは聞かれる。そのため、辞書と会話集という二つのツールを開発し、記録、継承、普及を進めるのが望ましい形と思われる。 また、辞書作成を通して、当初の予想より方言の個人差があることが判明した。これは、誰かの言い方が間違っている、という認識をされがちだが、言語学的に言えば、すべて個人の持つバリエーションであり、すべてが正しいと判断されるべきものである。現在手に入る与那国方言の辞典類ではそのようなバリエーションの記載はなされておらず、今後はその記録作成も望まれる。そのためには、若くして島を離れた人が記憶している方言の調査なども必要であり、引き続き、郷友会などとの協力体制を模索する必要がある。
今後の取り組み方針		
上述した島内のニーズに応えるとなると、今後は辞書のみならず、会話例文集等の編集も必要になる。その際には、レイアウトや挿絵などにも工夫をし、実際に島民に利用してもらいやすいかたちにするのが重要である。そのために、デザイン等は専門の業者等の知見を活かすべきである。 辞書に載せる例文の作成が当初予想より困難であることがわかった。そこで、例文を作るのが上手な話者を探すこと、もしくは、話者の方に例文作成に慣れてもらうことが重要である。使いやすい辞書にするためには例文は不可欠であるため、辞書項目を増やすことよりも例文を増やすことを重視した活動が必要である。		

資金の流れ												
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)												
		総事業費	交付対象事業費	<table><tr><td>交付金 充当額</td><td>市町村 負担金</td><td>交付対象 外経費</td></tr><tr><td>3,933</td><td>3,933</td><td>3,146</td><td>787</td><td>0</td></tr></table>	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	3,933	3,933	3,146	787	0
交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
3,933	3,933	3,146	787	0								
与那国町 3,933千円	報酬 2,583千円	嘱託員 2,583千円	〔与那国方言辞典編集専門嘱託員〕									
	委託費 1,112千円	有限会社シーエーピー 1,112千円	〔与那国わらべ唄CD制作に係る委託業務〕									
	事務費 238千円	〔報償費・旅費・需用費・使用料〕										

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、実績を判断し指名競争入札にて選定されている。また、専門職の嘱託員については、町の規定に基づき適正に支出されている。 ○事業内容の一部が実施出来なかったが、その他については計画どおり実行されている。 ○費用の使途については、事業に必要な経費に適正に支出されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	安心・安全のまちづくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-ア	
担当部課名	長寿福祉課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり Ⅲ-4-(1)	
事業内容	就学前児童及び小学校3年生以下を対象として、教育課程に係る教育時間終了後に公共施設の一室を利用して、子どもにとって安心・安全な場所を設け、遊びの場を提供し、保護者の子育て支援する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,456	3,456	3,456		
		(b) 予算現額	3,848	3,983	5,032		
		(c) 増減額 (b-a)	392	527	1,576		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	3,848	3,983	5,032		
	B. 執行済額		3,848	3,983	4,997		
	うち交付金充当額		3,078	3,186	3,997		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	99.3%		
予算の状況の説明		・当初指導員数は2名体制であったが、年度途中より指導員数を3人に増員したための増額であり、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	子育て支援臨時職員の雇用 臨時職員雇用：2人	目 標	（ 2人 ）	（ 2人 ）	（ 2人 ）	（ ）	
		実 績	2人	2人	3人		
達成状況説明	就学前児童を対象にして、公共施設の一室を利用し子供達が安心して生活できる場所の確保と、保護者が安心して就労できる環境を整えるため子育て支援臨時職員を配置ことにより、与那国島で安心して子育てし定住する環境を整えることができた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
	・預かり人数 27名以上 （平成26年度 25名～27名）	目 標	（ ）	利用者数 24人	（ 24人 ）	（ 27人 ）	（ ）
		実 績		23人（月平均）	26人（月平均）	32人（月平均） 40人（最高）	
	進捗状況説明	・子ども達が放課後や夏休み等に安全で生活できる場所を提供することができたことで保護者の安定した就労が可能となり、与那国島で安心して子供を産み育てる環境が整備され定住促進に繋がって行くことができる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	子育て支援臨時職員を配置し学童保育を実施しているが、学校から学童までの送迎等についての支援も必要といることから、保護者が安心して就労できる環境を今まで以上に支援する必要である。また、28年度より自衛隊の駐屯配置により人口増になることから定員の増を考慮する必要がある。	3人体制の子育て支援臨時職員による学校から学童までの送迎について、1人は施設での出迎え2人が幼稚園までの出迎えとなり、30人近くの園児を2人の指導員により公道を歩いていることから、交通安全の面で改善の余地がある。
今後の取り組み方針		
働く女性や核家族が増える中で、共働き家庭や一人親家庭の子ども達が、放課後や夏休みなど長期学校休校日は親が仕事をしているため、子ども達が安心して生活できる場所の確保と、保護者が安心して就労できる環境を整える。そのため、現在の施設では手狭になってきており将来的にさらなる定員の増員を考慮する場合は施設の拡充が必要と考える。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,997</td><td>4,997</td><td>3,997</td><td>1,000</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,997	4,997	3,997	1,000	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,997	4,997	3,997	1,000	0										
与那国町 4,997千円 賃金 4,997千円 子育て支援臨時職員 (3人) 4,997千円 学童保育にかかる子育て支援指導員(臨時職員)の賃金														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援臨時職員の賃金については、与那国町賃金職員雇用管理規程に基づき確認の上で支出しており、妥当であったと考えている。 ○事業の内容から、予算規模は適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	少子高齢化対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	長寿福祉課 福祉班	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上		
					Ⅲ-4-(1)		
事業内容	本町唯一の医療機関である与那国診療所には、各専門医がないため、出産または専門医療を受けるためには、海で離れた石垣島の病院へ通院する必要がある。そのため妊娠から出産までに必要となる渡航費等の費用について支援を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,223	1,507	1,507	1,507	
		(b) 予算現額	1,225	1,826	2,133	1,507	
		(c) 増減額 (b-a)	2	319	626	0	
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	1,225	1,826	2,133	1,507	
	B. 執行済額		1,200	1,826	2,133	936	
	うち交付金充当額		960	1,461	1,461	748	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		98.0%	100.0%	100.0%	62%	
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標、達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	妊産婦定期健診の実施 妊産婦一人当たり受診回数:12回/人	目 標	(渡航費補助)	(渡航費補助)	(渡航費補助)	(渡航費補助)	
		実 績	渡航費補助	渡航費補助	渡航費補助	渡航費補助	
達成状況説明	妊婦が出産までに必要となる渡航費用及び宿泊費等の費用を補助することで、妊婦が安心して暮らせる環境を確保することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	支援人数 20名 (平成26年度 19名)	目 標	()	(20名)	()	()	()
		実 績		10名			
	進捗状況説明	当該年度は、妊婦の人数が想定より少なかったため成果目標を下回ったが、妊娠後の定期的な島外での診察のための渡航費及び出産待機宿泊費助成の実施により、島外での出産に係る費用の負担軽減が図られ、妊婦が安心して出産、子育てができる環境を支援する事が出来た。予想以下の実績であったが、当該事業の計画はあくまでも想定による積算のため、今後も十分な支援が継続できるよう適切な事業計画を判断をしていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・妊娠から出産にあたって多額の経費がかかる離島において、妊産婦の負担を軽減し、人口流出を未然に防止し、定住環境の改善を図る必要から本事業を実施している。 ・27年度については前年度並みとしていた当初の想定よりも事業の支援対象となる人数が少なく、目標としては未達成となった。 ・妊産婦への島外診療に係る渡航費等の助成を実施したことで、離島ゆえに負担せねばならない渡航費や宿泊費等の負担が軽減されることとなり、安心して出産が出来る環境を整備することが出来たことから、人口の維持・定住促進につなげることができた。 ・これまで事業を実施してきている中における課題としては胎児の状態などによっては高度な医療機関への入院が必要な場合などが発生しており、本事業においては八重山圏域内での出産にかかる渡航費の助成を想定していることから、支援対象外となっている事例が存在する点がある。	・可能な限り予算の策定にあたっては助成に係る需要の把握に努め、予算の効率的な活用に努める必要がある。 ・事業当初の想定においては対象外となっている妊産婦およびその家族の定住環境の改善を推進するため、より高度な医療を受ける必要のある症例など、一般的な出産のケースに当てはまらない案件につき、適切な支援策のあり方について追加で検討することが必要である。
今後の取り組み方針		
・事業効果については評価する声が多いことから、今後も妊産婦に対して、出産までに必要な渡航費等の助成を実施することで、離島住民が抱える医療提供体制や受診にあたっての経済的・心理的負担の軽減を図り、安心して子供産み育てることができ、出産などに際して島外へ移住する必要のない環境の構築に向け、本事業を継続する。 ・事業予算の策定にあたっては、あらかじめ可能な範囲で情報を収集し、適切な事業規模の検討を行う。 ・今後は、現状課題となっている、特殊な事例に対応するための追加支援策として、実施要綱の改正などを行い、助成の対象として加える方向で検討するなど、更なる住民の離島での生活にかかる負担感の軽減を図る。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>936</td><td>936</td><td>748</td><td>188</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	936	936	748	188	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
936	936	748	188	0										
与那国町 936千円 補助金 936千円 平成27年度妊婦・出産 旅費助成金 936千円 妊婦・出産旅費にかかる助成金														
資金の用途の流点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○妊産婦通院費助成金交付申請により、対象者及び実績を確認の上で決定しており妥当であると判断している。 ○執行額は規模にあって適切であった。 ○費目・使途については、事業内容に即した適切な内容であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町						
平成27年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	公共交通路線支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ウ	
担当部課名	総務財政課 交流推進班	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化 Ⅲ-9-(1)	
事業内容	本事業は、地方バス運営に必要な経費を支援することにより、生活路線バスの安定的な運営を維持し、定住するために必要な条件整備すると共に、来島者の利便性向上を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額	3,000	3,000	3,000	3,000	
		(b)予算現額	1,750	3,000	3,000	3,000	
		(c)増減額(b-a)	▲1,250	0	0	0	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)		1,750	3,000	3,000	3,000	
	B. 執行済額		1,750	3,000	3,000	3,000	
	うち交付金充当額		1,400	2,400	2,400	2,400	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27成果目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	公共交通路線バス運行費用への支援	目標	（路線バス運行実施）（路線バス運行実施）（路線バス運行実施）（各線バス運行実施）				
		実績	路線バス運行実施 路線バス運行実施 路線バス運行実施 路線バス運行実施				
達成状況説明	・観光客等及び地域住民の利便性向上を図りながら、定住するための必要な条件整備をすると共に、住民が定住し続けるために必要な社会生活基盤の維持が出来た。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	27年度
	公共交通路線バス運行便数：年間2,555便/8,000人	目標	（ ）	（2,556便/年）	（2,500便/年）	（2,500便/年）	（年間2,555便/8,000人）
		実績		2,556便/年	2,549便/年	2,555便/年	年間2,531便/8,111人
	進捗状況説明	・路線バスの安定的な運営を維持し、運転が困難な高齢者や園児児童生徒及び来島者の利便性向上を図った。なお、目標便数に関しては、台風襲来に伴う運休が数回発生したためである。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・人口約1,500人の本町では、運賃のみで路線を維持することは困難であることが改めて明らかとなった。 ・車輛など設備の更新が必要となった場合、更なる支援なしに生活路線の安定的な運行維持が難しいことが示唆されることから、今後、路線バス維持対策検討会等を行い、本町での安定した路線バス運行に取り組む。 ・新たな施設等の建設により、路線バスの利用環境に変化があり現行の運行形態では、対応が出来ない地域が確認された。	・人口減少し続ける現状の中で、今後、住民や来島者の需要に応じたサービスの供給について引き続き検討し、取り組むことで路線バスの維持に期待できる。 ・引き続きバスの運行時間や便数、路線の見直し(需要に見合った)により、利用者の利便性の改善が見込まれる。
今後の取り組み方針		
・利用者数の増加を図るため、「広報よなぐに」をはじめ、空港や宿泊施設、飲食店など、機会あるごとに公共交通機関であり生活路線でもある定期バスの利用を引き続き呼びかける。 ・バスの運行時間や路線などを検討し、島内外を含めた利用者の利便性向上を図る。 ・利用者の利便性を図るため、アンケート等を含めた調査の取組などを検討する。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,000</td><td>3,000</td><td>2,400</td><td>600</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 与那国町 3,000 千円 委託料 3,000千円 最西端観光 株式会社 3,000千円 与那国町生活路線バスにかかる委託業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,000	3,000	2,400	600	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,000	3,000	2,400	600	0										
資金の 使途の 流れ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○与那国町では現在、大型観光バス業務及びタクシー業務等を行っている業者が1社しかおらず、その1社に委託するのが随意契約の理由である。 ○委託事業者は随意契約方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町							
平成27年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-②	与那国町古民家活用型定住促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア			
担当部課名	総務財政課 交流推進班	事業実施（予定）年度	H26～H29	沖縄振興基本方針該当箇所	離島の特徴を生かした産業振興と新たな発展			
					Ⅲ-9-(1)			
事業内容	平成26年度与那国町古民家活用型定住促進モデル実施計画の成果に基づき、古民家解体並びに解体古材資源活用マニュアルの作成を実施し、町内建設事業者の関与を促進すべく、技能研修機会を事業に盛り込む。古材を重視した耐震補強、部材修理等含め、古い建築技術と現代の建築技術を融合させた設計監理業務、定住促進住宅整備工事を実施する。							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,536	38,966				
		(b) 予算現額	4,320	4,000				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 216	▲ 34,966				
		(d) 繰越額	—	—				
		A. 計 (b+d)	4,320	4,000				
	B. 執行済額		4,320	3,547				
	うち交付金充当額		3,456	2,837				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率（％）(B/A)		100.0%	88.7%				
予算の状況の説明		・解体マニュアル作成、解体工事については、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・減額が▲34,966千円発生している理由については、9月の台風21号により対象家屋に被害が生じ対応から業務の執行に遅れが生じたため、当初計画していた設計監理業務・住宅整備工事の執行が困難となり減額が発生した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	・古民家活用型定住促進体験住宅の建築 ・古民家解体及び移築設計マニュアルの作成	目 標	（ 保全マニュアル作成 ）	（ 解体マニュアル作成・解体工事・設計監理業務・住宅整備工事 ）	（ ）	（ ）		
		実 績	保全マニュアル作成	解体マニュアル作成・解体工事				
達成状況説明	・解体マニュアル作成・解体工事を実施した。なお、設計監理業務、住宅整備工事については、9月に発生した台風21号により対象家屋に被害が生じ対応から業務の執行に遅れが生じた。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）	
	・本年度は、実施計画に沿って古民家解体マニュアル作成、設計管理業務、促進住宅整備工事を完成する。 ・古民家活用型定住促進体験住宅を完成させ次年度の実施に向けて整備をつなげる。	目 標	（ ）	（ 保全マニュアル作成 ）	（ 解体マニュアル作成・解体工事・設計監理業務・住宅整備工事 ）	（ ）	（ ）	
		実 績		保全マニュアル作成	解体マニュアル作成・解体工事			
	進捗状況説明	・古民家解体・古材の確保をした事により、今後の古民家移築の整備工事及び古民家活用型定住促進を図る。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・古民家解体での解体技術など実施可能な建設業者が乏しいのが現状である。	・古民家再生活用を実施していく中で、本町の建設業者への解体知識や解体方法などの広く周知する必要があることから、有識者等並びに地域との連携の構築を図る。
今後の取り組み方針		
・今後は、平成27年度で実施した古民家の古材を活用し、住宅の建築を行い定住促進に取り組む。また、町内の建設事業事業者の関与を促進すべく、技能研修の機械を設け、技術の習得を支援する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,547</td><td>3,547</td><td>2,837</td><td>710</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 与那国町 3,547千円 委託料 1,322千円 → 有限会社 東浜建築事務所 1,322千円 (古民家解体マニュアル作成業務委) 工事費 2,225千円 → 株式会社 栄電社 2,225千円 (古民家解体工事(家屋A))					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,547	3,547	2,837	710	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,547	3,547	2,837	710	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行額に減額(台風の影響により)が生じているが適正だったと考える。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												